

応用統計学会、日本計算機統計学会、日本計量生物学会、日本行動計量学会、日本統計学会、日本分類学会、統計教育大学間連携ネットワーク共催

“統計関連学会連合大会”

9月13日（土）～16日（火）の4日間、東京大学本郷キャンパスにて開催！



経済学研究科棟はじめ9つの発表・講演会場は立ち見もできるほどの混雑模様

9月13日（土）午後、チュートリアルセッションと市民講演会に始まり4日間、応用統計学会、日本計算機統計学会、日本計量生物学会、日本行動計量学会、日本統計学会、日本分類学会、統計教育大学間連携ネットワークが共催した「統計関連学会連合大会」が開催され、800名余りが参加者しました。

本格的な企画セッション等のテーマは①スポーツにおけるビッグデータの活用、②メタアナリシスにおける最近の傾向、③計量経済学、④GLSの理論研究の魅力と実証的有効性、⑤マイクロデータ分析の国際的動向、⑥空間統計、⑦機械学習、⑧多変量解析、⑨公的統計におけるオープンデータ化の取組み、⑩日本計量生物学奨励賞受賞者講演、⑪教育・心理・社会統計、⑫統計理論一般、⑬金融リスク管理における統計的方法、⑭ベイズ理論、⑮データマイニング、⑯モデル選択、⑰データ中心政策科学の実践と展開、⑱医学統計、⑲日本分類学シンポジウム、⑳経済・経営統計、㉑時系列解析、制御理論、㉒法・裁判と統計、㉓ビッグデータ/オープンデータ利活用人材育成に向けた統計教育の推進と質保証、㉔計算機統計、㉕物価関連統計と消費税引き上げ、㉖生物統計などの他…

㉗計量ファイナンス、㉘応用統計学会賞受賞者講演、㉙統計科学と保険、㉚日本統計学会賞受賞者記念講演、㉛ソフトウェアデモンストレーション、㉜公的統計における新しい取組み、㉝臨床試験、㉞マーケティング、㉟技術開発プロセスを加速させるための知の統合、㊱計算機統計学における大規模医療・生態系データ解析、㊲スパース正則化における統計的推測、㊳分布論、㊴公的データの収集・公表・分布の最前線、㊵疫学・人口統計、㊶統計教育大学間連携ネットワークの取組み状況と今後、㊷スポーツビジネスの計量分析：プレイヤーとファンの相互作用を探る、㊸高頻度従属データの推測理論、㊹漸近理論、㊺スポーツ統計科学の方法論、といった切り口で、幅広い分野での“統計”の活用事例、研究活動などの発表や講演が相次ぎました。

この大会中には各学会の表彰なども相次ぎ行われましたが、その内、日本統計学会の表彰の模様をお伝えします。

15日（日）午後1時から経済学研究棟で行われた表彰式では第19回日本統計学会賞、第10回日本統計学会統計教育賞、第8回日本統計学会研究業績賞、第7回日本統計学会出版賞、第28回日本統計学会小川研究奨励賞等の授与が行われました。

《ビッグデータ/オープンデータ利活用人材育成に向けた統計教育の推進と質保証》の会場



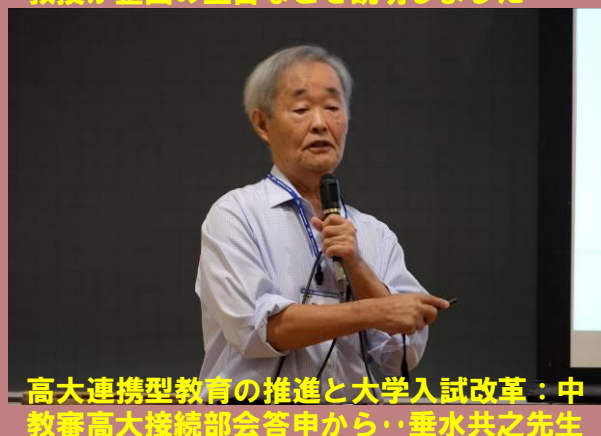
こちらの会場では午前中、日本統計学会の教育関連の発表が行われました



オーガナイザー慶応義塾大学の渡辺美智子教授が企画の主旨などを説明しました



座長は同志社大学の村上征勝先生



高大連携型教育の推進と大学入試改革：中教審高大接続部会答申から…垂水共之先生



第Ⅱ期「公的統計の整備に関する基本的な計画」統計教育を中心として…赤谷俊彦氏



日本学術会議における統計学分野の参照基準について……………田栗正章先生

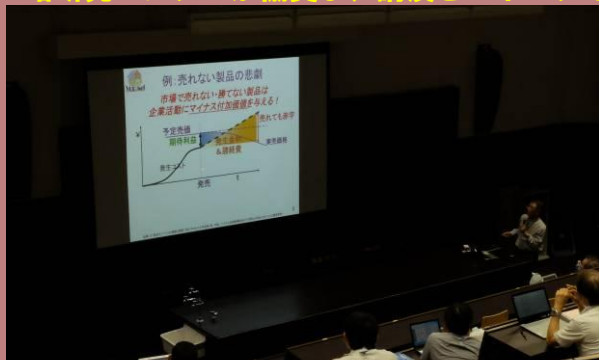


データサイエンティスト育成と統計検定の活用……………山川義介氏

応用統計学会《技術開発プロセスを加速させるための知の統合》の会場



午後に覗いたこちらの会場では、品質工学会、日本T R I Z協会、統計数理研究所リスク解析戦略研究センターが協賛し、講演とパネルディスカッションが行われていました



売れない製品の悲劇、売れない製品は企業にマイナスの付加価値となると…林利弘氏



QFDなど品質工学に関連する言葉が飛び交っていました…黒河英俊氏



「知の巡りを良くする手法間連携」の必要性を…………吉澤正孝氏



椿広計先生（立）のリードで左から黒河、吉澤、林、田口の各パネラーの先生方



途中からの入室で田口伸先生の講演を聞くことはできませんでしたが……



座長はオーガナイザーも務める大阪大学大学院の竹内恵行先生

《日本統計学会各賞》授与式の模様



こちら経済学研究科棟のB会場では日本統計学会の表彰式も行われました



9月15日(月)午後1時から、経済学研究科B棟の会場では日本統計学会の各種表彰が行われました。

第19回日本統計学会賞に江口真透氏と杉山高一氏の2名、第10回日本統計学会統計教育賞に橋本三嗣氏と前川恒久氏の2名、第8回日本統計学会研究業績賞には笠原博幸氏と下津克己氏が共同受賞と増田弘毅氏、第7回日本統計学会出版賞には青木敏氏と竹村彰通氏と原尚幸氏の3氏の共同受賞、第28回日本統計学会小川研究奨励賞には鎌谷研吾氏、さらに今年から参加している統計検定(英国統計協会/日本統計学会)試験最優秀成績賞として小野裕亮氏の表彰が行われました。

最初の表彰は第19回日本統計学会賞で、受賞者は統計数理研究所数理・推論研究系教授の江口真透先生。

江口真透先生が受賞対象となったのは、相対エントロピーを含め、様々なダイバージェンスに基づいて統計的手法にアプローチすることで、統一的な観点や新しい切り口を見出すなど統計学の発展・普及に多大な貢献をしたこと。また機械学習に統計学の視野からアプローチすると同時に古典的な統計学に機械学習のコンセプトを導入。さらには理論研究を行うにあたって実データも強く意識した点が特徴的と評価されたもので、第19回日本統計学会賞を授与されました。

《日本統計学会各種表彰》受賞者紹介



続いて第19回日本統計学会賞を授与されたのが中央大学名誉教授で創価大学客員教授の杉山高一先生です。

多変量解析の理論研究において多くの優れた研究業績を挙げた点が受賞理由とされています。大学院生の時に2変量正規母集団における一般的な母共分散行列における固有ベクトルの分布を導き出し、その後、 p 次元へと一般化した結果を導き出した。また主成分分析で重要な最大固有値や最小固有値に関する分布論についても大きな成果を挙げています。



第10回日本統計学会統計教育賞を受賞したQCサークル関東支部京浜地区顧問で日本品質管理学会TQE特別委員会委員の前川恒久氏。企業内の品質管理基礎研修などで実施した折り紙の“ヘソ飛行機”を用いたデータ収集の経験を活かし、生産活動の模擬体験を通じてデータ収集の演習を行うもので、初等中等高等学校から大学まで千葉県や埼玉県など東京近郊だけではなく香川や広島などでも小中高등학교の先生方にデータ収集の演習を紹介、指導していることが評価されました。



第10回日本統計学会統計教育賞を授与された広島大学附属中・高等学校の教諭・橋本三嗣先生は、教育実践例の少なかった中学校や高等学校の数学科における統計内容について、積極的に授業に取り組んできたことを評価され「どのように統計的なアプローチを進めていくのか？」というテーマに、問題解決能力の育成を目指し、データスタジアムから提供されたプロ野球データを用いた学生コンペティションを授業に取込み、英国ポーランド・マスの教材を活用した授業作りなど、生徒が主体的に考え、行動する形での展開等これまでにない新しい統計教育に取り組んでいます。



次の第8回日本統計学会研究業績賞の1件目は、ブリティッシュコロンビア大学経済学部の笠原博幸准教授と東京大学大学院経済学研究科の下津克己教授の共同受賞です。動学的離散選択の異質性を説明するために用いられる様々な有限混合分布モデルにおいて、成分数や各成分の選択確率・分布などに関する識別性の条件を導入し、さらに多変量有限混合モデルにおいて、次元数が2以上であるときに観測データの分布関数から構築される行列の階数から、成分数の下限がノンパラメトリックに識別可能であること及び推定方法を示すなど顕著な業績を評価されました。

《日本統計学会各種表彰》受賞者紹介



同じく第8回日本統計学会研究業績賞を受賞したのは九州大学マス・フォア・インダストリ研究所の増田弘毅准教授です。

ジャンプ型確率過程モデルに対する統計的漸近論の基礎構築に広く貢献していることが評価されました。

特にジャンプ型確率微分方程式からの高頻度データで現れる漸近特異性 (Fisher 情報量行列が常に退化) や固定期間でのトレンド構造の一致推定可能性など拡散過程モデルの場合とは著しく異なる現象が起こることを解明したものです。



続いて表彰されたのは第7回日本統計学会出版賞で、鹿児島大学理学部の青木敏准教授、東京大学大学院情報理工学系研究科の竹村彰通教授、新潟大学経済学部の原尚幸准教授の3名の共同受賞です。

“Markov Bases in Algebraic Statistics” 2012, Springer が受賞対象です。

この本は代数統計学において中心的な話題であるマルコフ基底について、3名の著者の研究成果を含めて理論の全体的な解説を与えた図書で、洋書を含めても現在、唯一の体系的な教科書である点が評価されたものです。



また歴史ある第28回日本統計学会小川研究奨励賞を受賞したのは大阪大学大学院基礎工学研究科の鎌谷研吾氏です。

ベイズ統計学ではマルコフ連鎖モンテカルロ (MCMC) 法が基本的なツールとして広く利用されているが、一方でMCMC法の計算量はしばしば膨大となるため、計算量の軽減が求められ、データやモデルに応じて適切なMCMCを選択する必要がある。鎌谷氏の研究では複数のMCMC法の中から最適なものを選択するための比較手法が提案され、評価されました。



ここで表彰式は終了の予定でしたが、突然、統計質保証推進協会の統計検定センターの中西寛子センター長 (成蹊大学名誉教授) から緊急提案がありました。

JSS (Japan Statistical Society 日本統計学会) が RSS (Royal Statistical Society 英国王立統計学会) と契約を取り交わし実施している国際資格で、日本から驚くべき点数を採り、合格した方がいることから、日本統計学会として表彰することが提案・了解されたことが説明され、受賞者である SAS インスティテュートジャパンの JMP ジャパン事業部テクニカルグループの小野裕亮氏が紹介されました。

《日本統計学会各種表彰》受賞者紹介



前述のとおり、統計検定センターの中西センター長から紹介された驚きの若きスタティスティシャン小野裕亮氏が呼ばれ、特別表彰の表彰状を授与されました。

RSS/JSS 試験の Graduate Diploma に対する統計検定 RSS/JSS 試験最優秀成績賞が小野裕亮氏に贈られたものです。

Graduate Diploma は統計検定が今年から実施した統計関連の国際資格の中で最高位のものです。

出題はすべて英語、1 モジュール 3 時間を 5 モジュールパスしなければならず、計 15 時間の長丁場です。小野氏は平均点 75 点以上の高成績で合格し Pass with Distinction を獲得しました。

難易度の高い試験に日本から初めて合格しただけではなく、平均点が 75 点以上という最高位の成績であったことから「最優秀成績賞」が授与されたものです。

記念撮影



写真は成蹊大学名誉教授・統計質保証推進協会統計検定センター長の中西寛子先生撮影

会場提供元でもある東京大学経済学研究科長・経済学部長で日本統計学会会長の国友直人会長、中央大学理工学部経営システム工学科教授で統計関連学会理事長、日

本統計学会理事長の鎌倉稔成理事長を囲み、受賞者一同記念撮影。

表彰式前の緊張感も緩み、記念撮影では皆さん余裕の表情でした。